

計画事業番号	00684	事務事業名	生活バス路線確保対策事業	担当部署	企画財政部企画課	電話	3606
--------	-------	-------	--------------	------	----------	----	------

【基本情報】

事務区分	■自治事務 □法定受託事務	根拠法令等	北広島市生活バス路線維持補助金交付要綱・北広島市生活バス路線維持補助金事務取扱要領				
事務事業開始年度	平成24年度	個別計画等					
〃 終了予定年度							
ソフト・ハード区分	ソフト事業	会計区分	一般会計	補助単独区分	単独	新規継続区分	継続

【事業概要】

1 総合計画体系	(第 5 章) 快適な生活環境のまち (第 4 節) 交通の充実 (施策 1) 公共交通の充実
2 対象	乗り合いバス事業者
3 目的と内容	市民の日常生活に不可欠な生活バス路線を維持・確保し、市民生活の利便を図るため、市内完結バス路線の運行経費の一部を乗合バス事業者へ補助する。また、公共交通に関する学校授業等を実施する。 ＜補助対象路線＞国庫補助・道単補助の対象路線以外で、かつ複数市町村にまたがらない市内完結路線 ＜補助対象期間＞補助金の交付を受けようとする会計年度の前年度の3月31日を末日とする1年間 ＜補助対象経費＞経常費用と経常収益の差額(赤字額)
4 実施内容(手段)	28年度まで ・乗合バス事業者の市内不採算路線の運行欠損額の一部を補助金として交付 ・モビリティマネジメント学校事業の実施(平成28年度は双葉小学校、広葉中学校)
	29年度 昨年度と同様であるが、運行欠損額への補てんの仕組みは、路線の維持・確保には効果はあるものの、バス利用者の増加には中々結びつかない実態がある。バス事業者や市民等で構成する「地域公共交通活性化協議会」において、バス路線のあり方や、利用促進等に向けた検討を進めていく。

【事業の計画・実績】

平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績
・乗合バス事業者の市内不採算路線の運行欠損額の一部を補助金として交付 ・学校授業におけるモビリティマネジメントの実施	・補助金 4,000千円(運行欠損額 16,186千円) ・モビリティマネジメント学校授業(双葉小学校4年生70名とその保護者約50名、広葉中1年生61名)	・乗合バス事業者の市内不採算路線の運行欠損額の一部を補助金として交付 ・学校授業におけるモビリティマネジメントの実施		・乗合バス事業者の市内不採算路線の運行欠損額の一部を補助金として交付 ・学校授業におけるモビリティマネジメントの実施		・乗合バス事業者の市内不採算路線の運行欠損額の一部を補助金として交付 ・学校授業におけるモビリティマネジメントの実施	

【評価結果・評価コメント】

総合判定		平成30年度に向けた具体的な方向性		評価区分
前年度 2次評価	現状継続	現状継続とする。		「拡大」 「現状継続」 「要検討」 「見直し」 「統合」 「休止・廃止」 「終了」
1次評価	現状継続	市民の日常生活における移動手段を確保するため必要な事業であり、現状継続とするが、バス利用者が減少している現状からも、利用促進の取組をバス事業者及び地域住民と進めていく必要がある。平成29年度に持続可能な公共交通網の形成に向け、その指針となる計画を策定予定であるので、本計画に沿ったバス路線網や利用促進策などの検討を行う。		
2次評価	現状継続	現状継続とする。		

【事業費の推移】

(単位:千円)

			平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
決算額、当初予算額又は推進計画額			4,020		8,042		8,042		8,042	
事業額	直接事業費	国支出金	0		0		0		0	
		道支出金	0		0		0		0	
		地方債	0		0		0		0	
		その他特財	0		0		0		0	
		一般財源	4,020		8,042		8,042		8,042	
	① 合計	4,020		8,042		8,042		8,042		
人件費 (左側:一般、 右側:再任用)	② 人数(年間)	0.10	0.00	0.10	0.00	0.10	0.00	0.10	0.00	
	③ 1人当り年間平均人件費	8,400	4,500	8,400	4,500	8,400	4,500	8,400	4,500	
	④ =②×③	840	0	840	0	840	0	840	0	
総事業費①+④			4,860		8,882		8,882		8,882	

【評価指標】

指標名		単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
活動指標	①補助金額	目標値	4,000	8,000	8,000	8,000
		実績値	4,000			
	②学校におけるモビリティマネジメント授業	目標値	2	2	2	2
		実績値	2			
③	目標値					
	実績値					
④	目標値					
	実績値					
成果指標	①生活バス路線の維持路線数	目標値	9	9	9	9
		実績値	9			
	②生活バス路線の便数維持数	目標値	128	128	128	128
		実績値	128			
③	目標値					
	実績値					
【指標の定義(算式等)】		実績値				

【評価項目】

チェック項目	評点	コメント
妥当性 ・税金を使って行うこと(補助すること)が妥当ですか？ ・上位の施策への貢献度は大きいですか？ ・特定の団体の利益に偏っていませんか？ 【評点欄】3妥当、2どちらかという妥当、1妥当でない 【コメント欄】理由を記入	3	通勤・通学者、高齢者など市民にとって生活バス路線は重要な移動手段であることから、これらの確保・維持に向けた対策は、市が関与するべき事業であり妥当である。
達成度 ・計画どおりに成果があがっていますか？ 【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない 【コメント欄】理由を記入	3	補助金を交付することにより事業者の大幅な減便等を防ぎ、生活バス路線の安定した供給に向けた有効な手段であり、事業成果はあがっている。
成果向上 ・成果が現状よりも向上する可能性がありますか？ 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入	2	運行欠損額の一部補てんは、減便等の防止に直結しており、実効性の高い手段であるが、地域の規模に応じたバス路線のあり方について検討する必要がある。
経済性 ・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありませんか？ 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入	3	生活バス路線を維持するうえで直接的な支援であり、有効な手段である。

【法律で実施が義務付けられている事務事業か】

法律の義務付けあり

法律の義務付けなし

【民間活力の活用性評価】
(事業担当部局が評価)

民間等での実施または市民等との協働が可能である。

民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。